

# 同志社大学

## 2008年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2009年 3月 11日提出

所 属	職 名	氏 名
法学部	教授	伊藤 彌彦
研 究 題 目	1) 大学史研究 2) 戦後日本の再建と知識人	
研 究 成 果 の 概 要	<p>1) 大学史関連の仕事として、</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・いちばん時間を費やしたのは『新島襄論集』（仮題）編集のための候補論稿の選択とその原稿づくりであった。共同作業者の北垣宗治名誉教授、本井康博教授と、年間20数回の読み合わせを行い、ほぼ草稿は出来てきた。これからは各論稿に解説をつける作業がある。</li><li>・徳富蘆花に関する養女の回想記録を入手し、そこにある辛らつな蘆花夫妻像を発見した。</li></ul> <p>2) 戦後日本の再建と知識人、に関しては</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・中野好夫に焦点を当てることにし、資料収集をしている。公開されたアメリカ陸軍省の機密史料も入手したが、さしたる重要情報は含まれていない。</li><li>・中野好夫没後直後に出された追悼文の収集を試み、雑誌、ミニコミ誌掲載の追悼文はほぼ収集できた（点数として100本位）。</li><li>・『中野好夫集』を読んで、かれの思想と行動を追跡しているが、いまだ論文にまとめるに到らない。</li></ul> <p>3) その他 今年は、活字にしたものが少ないとしてであった。 書評：眞壁仁『徳川後期の学問と政治』を『年報政治学 2008-I』、2008年6月に発表</p>	